

平成27年度特定鳥獣の保護・管理に係る研修会

<初級編>

クマ類

羽澄俊裕

1 ヒグマとツキノワグマ

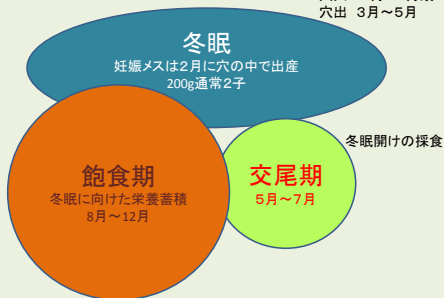


2 クマ類の基本的な生態と保全の要点

クマ類のライフサイクル

(生理システムを転換して生きている)

地域差、年差、個体差
穴入 11月～1月頭
穴出 3月～5月



クマ類の保全の要点

■ 広く連続的な分布域を確保する

- 密度 0.5～1.5頭/km²
- 600～2,000km²の連続的分布域が必要
(保全生物学1,000頭の集団を担保)
- 小規模孤立の回避を重視

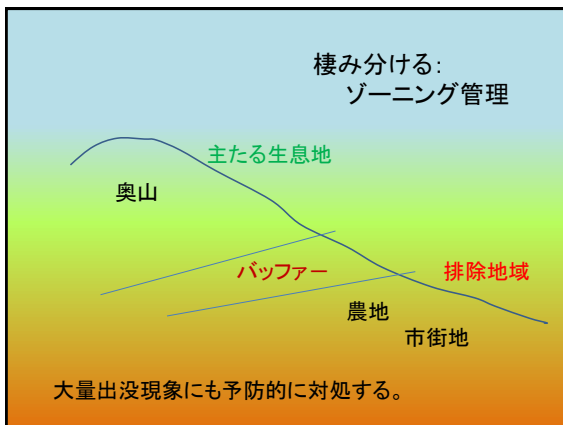
■ 奥山の森林再生

- 秋の飽食期の食物供給を奥山で担保する

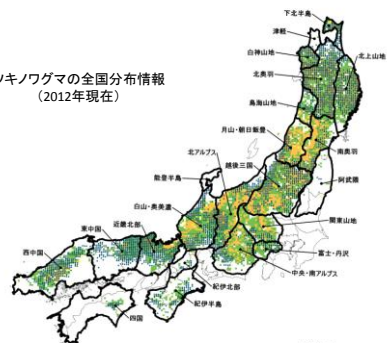
■ 総捕獲数を抑制する

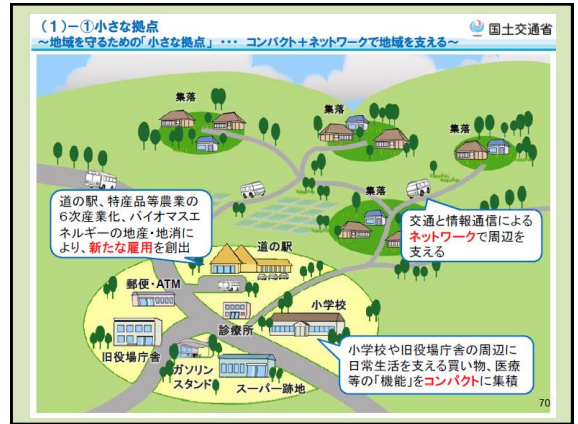
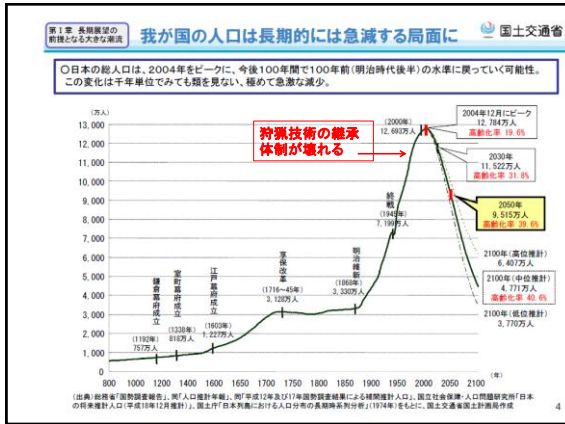
- できるだけ捕獲数を抑制する方向で対処する。

棲み分ける：
ゾーニング管理



ツキノワグマの全国分布情報
(2012年現在)





総捕獲数管理

捕獲数の抑制的管理にあたっての捕獲数の目安

モニタリングの調査設計

保護計画か管理計画か

保護管理の体制作り

- P 計画の作成
- D 対策の実行
捕獲、生息環境整備、被害防除
の実行体制
- C 評価
モニタリングの実行体制
- A 計画の見直し

